

エコアクション21
環境活動レポート

平成30年度
(活動期間：平成30年1月～12月)



平成31年2月20日

有限会社 伊東精麦所

長崎県諫早市津久葉町99番地36

I. 計画

1. 食品リサイクル・環境方針

有限会社 伊東精麦所 環境方針

【基本理念】

有限会社伊東精麦所は、「麦」を加工することで社会と大きく関わっております。食品の製造工程の改善により、原材料のロス削減させ、売上に反映させるよう努めます。食の安全と環境の保全を常に考え、目に見えないところを大切に、お客様と地域住民の皆様から信頼される企業創りを目指します。私達は、事業活動を行う中で社会の一員であることを強く認識し、「地球環境保全が未来を築く」ということを社会的責務と考えます。廃棄物は資源として活用することを考え、全社一丸となって自主的、積極的に、地域環境、地球環境に配慮し行動・貢献していくことを目指します。

【行動指針】

1. 食品製造工程の改善により、原材料ロスの減少とリサイクルに努め、食品廃棄物は食品としてリサイクル活用に努めます。
2. 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 節水、節電の努力と自己管理に努めます。
4. 使用原材料の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進に努めます。
5. 原材料及び事務用品等のグリーン購入に努めます。
6. 化学物質の削減及び適正管理に努めます。
7. 環境関連法規制及び業務上の法令を遵守し、社会に貢献できる企業創りに努めます。
8. 安全作業に心がけ、地域、近隣の環境保全と環境衛生に努めます。
9. 取組の必要性を朝礼、会議等で確認しあい、効果が上がるよう徹底に努めます。
10. 環境方針は、従業員全員に周知徹底するとともに、一般に公表します。

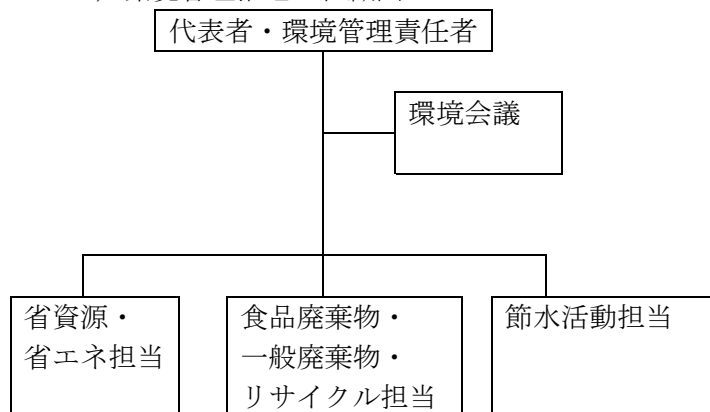
当社は、エコアクション21の取組により、環境目標・環境活動を定め、定期的な見直しを行うとともに、継続的な改善を積極的に推進します。

平成29年2月23日改定
有限会社 伊東精麦所
代表取締役 伊東清一郎

1、事業の概要

- 1) 事業名及び代表者名
 有限会社 伊東精麦所 代表取締役 伊東 清一郎
 URL : <http://www.e-mugi.co.jp/>
- 2) 所在地
 〒854-0065
 住所：長崎県諫早市津久葉町9番地36
 TEL : 0957-25-2255
 FAX : 0957-26-0041
 E-mail : ito-s@mocha.ocn.ne.jp
- 3) 環境保全関係責任者の連絡先
 責任者：伊東 清一郎 同 上

4) 環境管理推進の組織図



- 5) 事業内容： 精麦業
 当社は食品リサイクル法における再生利用等の実施率は、ほぼ 100% を達成しており、今後も維持向上に努めます。
- 6) 認証・登録の対象範囲
 当社は全組織・全活動を認証・登録の対象範囲としています。
- 7) 事業の規模
 ※ 当社の会計年度は1月から12月とします。

活動規模	単 位	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
主要製品生産量	t	2,335	2,171	2,177
従業員	人	10	10	10
床面積	m ²	2,177	2,177	2,177
敷地面積	m ²	4,691	4,691	4,691

8) 食品廃棄物等の再生利用等実施率

食品環境資源の再生利用等の2018年度の実施率は、99.5%と既に達成済みです。

今後も引続き廃棄物等の発生削減に努めます。(2018年度の基準実施率 85%)

平成19年以降食品廃棄物については家畜の飼料、農家の肥料等としてリサイクルを実施していましたが、当該農家が廃業し、現在は焼却場にて焼却処分を行っています。

30年度の生産量は麦焼酎・麦みその落込みも一段落したものの、対前年比100.3% (+6t) とほぼ前年並みに推移しています。

食品廃棄物等の再利用率も前年同率の99.5%と推移しています。

項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
食品廃棄物	t	773	735	725
リサイクル量	t	769	732	721
リサイクル率	%	99.5	99.5	99.5

2. 環境への負荷の状況

当社における過去3年間の環境負荷は、次の通りです。

項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
全社二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	252,342	241,792	237,924
二酸化炭素排出量 (電気・灯油・重油・LPG)	Kg-CO ₂	204,090	197,105	197,987
従業員当たり	Kg-CO ₂ /人	20,409	19,710	19,799
二酸化炭素排出量 (自動車用ガソリン・軽油)	Kg-CO ₂	48,252	44,687	39,937
従業員当たり	Kg-CO ₂ /人	4,825	4,469	3,994
水使用量	m ³	580	536	527
従業員当たり	m ³ /人	58.0	53.6	52.7
食品廃棄物排出量	t	773	735	725
従業員当たり	t/人	77	74	73
〈廃棄物量〉	t	4.07	3.55	3.51
従業員当たり	t/人	0.41	0.36	0.35
(食品残渣廃棄物)	t	4	3.5	3.51
(産業廃棄物)	t	0	0	0
(一般廃棄物)	t	0.07	0.05	0.01

購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.518kg-CO₂/kWh (新出光実排出係数 H28 度) を使用しています。

二酸化炭素排出については、効率を考え運用し使用量の削減に努めています。

産業廃棄物はベルトに付着した食品残渣であり、平成24年までは農家で肥料として利用していましたが廃業し、現在は市営の焼却場にて処分しています。

不要となったフレコン容器は業者に返却しています。
 一般廃棄物の新聞紙、ダンボールは再生利用を行っています。

3. 食品リサイクル・環境への取組状況

「食品リサイクル・環境への取組みの自己チェックリスト」に準じて環境の取組みについて自己チェックした結果は次の通りです。

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

施 策	評価点	満 点	実施率 (%)
1. 食品リサイクル等の取組に関する項目	168	178	94.4
2. 事業活動へのインプットに関する項目	176	190	92.6
3. 事業活動からのアウトプットに関する項目	35	40	87.5
4. 製品およびサービスに関する項目	40	62	64.5
5. その他	21	26	80.8
合 計	440	496	88.7

■ 評 価

- ・麦カスは、食品循環資源として飼料として再生利用していますが、現在食品として有効活用準備を進めています。又、ベルトに付着した残渣は、市営の焼却場にて焼却処分としています。
- ・二酸化炭素排出量が多い車両運行については、アイドリングの防止に努め、効率的な配送に努めています。
- ・車両は、毎月の走行距離管理を行い使用燃料の把握に努めています。
- ・産業廃棄物としての不必要なフレコン容器は業者へ返却し再利用しています。
- ・一般廃棄物の紙類（新聞紙・段ボール等）は再生利用を行っています。
- ・ペットボトルの発生は殆どありません。
- ・環境については、朝礼・会議等で全員に行なっており、意識は定着してきています。
- ・食品リサイクル等への関心も定着してきており、環境への取組みのチェック項目も増加してきました。
- ・取組状況「別表2環境への取組の自己チェックリスト」の評価点も年々向上しており実施率は88.7%となりました。今後は、項目の見直し等更なるレベルアップを図ります。

(参考)・・・	H.27.12	H.28.12	H.29.12	H.30.12
評価点	405	424	432	440
満 点	466	480	486	496
実施率	86.9%	88.3%	88.9%	88.7%

**【食品廃棄物・環境への負荷の把握項目及び
食品リサイクル・環境への取組の評価項目の選択シート】**

活動内容	負荷チェック	取組みチェック
1. 食品廃棄物の量及び再生利用等の実施率の把握		
① 食品廃棄物の再生利用等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物等総排出量 ■ 食品廃棄物等の発生抑制量、減少量、発生量 ■ 再生利用等の実施率 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食品リサイクル・環境への取組み
2. 環境への負荷の状況の把握		
② エネルギーの消費	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総エネルギー投入量 ■ 購入電力量、化石燃料消費量、新エネルギー等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 省エネルギー
③ 原材料、部品、包装材料等の消費	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総物質投入量 ■ 資源投入量、循環資源投入量等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 省資源 ■ グリーン購入
④ 水の消費	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水資源投入量 ■ 上水、工業用水、地下水 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 節水、水の効率的利用
⑤ 廃棄物の排出	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物等総排出量 ■ 有価物、一般廃棄物、産業廃棄物 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物の排出抑制、リサイクル
⑥ 廃棄物の最終処分	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物最終処分量 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適正処理
⑦ 化石燃料等の燃料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 温室効果ガス排出量 ■ 二酸化炭素、メタン 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二酸化炭素の排出抑制
⑧ 排水	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総排出量・水質汚濁物質排出量 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 排出処理

4、食品リサイクル環境目標

次のように環境目標を定めています。

1) 省エネルギー活動

平成29年度実績を基準として3年間で3%の削減目標を設定します(除LPG)。

従来は暖房用等使用の灯油で算出していましたが、暖房としての使用はなく、現在はLPGを環境目標として設定しています。

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
電力消費量	kWh	308,548	305,463 (△1%)	302,377 (△2%)	299,292 (△3%)
重油	L	13,560	13,424 (△1%)	13,289 (△2%)	13,153 (△3%)
LPG	Kg	95	94 (△1%)	93 (△2%)	92 (△3%)
二酸化炭素 換算量	Kg-CO ₂	196,856	194,887 (△1%)	192,919 (△2%)	190,950 (△3%)

※購入電力の二酸化炭素排出係数は新出光実排出係数 H28 年度 (0.518kg-CO₂/kwh) で算出します。従来お湯は温水器でしたが、現在は温水器とLPGを併用して対応しています。

2) エコドライブ活動

平成29年度の燃料消費量を基準として3年間で3%の削減目標を設定します。

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
燃料総消費量 (ガソリン+軽油)	L	17,498	17,323 (△1%)	17,148 (△2%)	16,973 (△3%)
二酸化炭素 換算量	Kg-CO ₂	44,687	44,240 (△1%)	43,793 (△2%)	43,346 (△3%)

1) 及び2) 項の二酸化炭素排出量の総量目標

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
二酸化炭素 総排出量	Kg-CO ₂	241,792	239,374 (△1%)	236,956 (△2%)	234,538 (△3%)

※購入電力の二酸化炭素排出係数は新出光実排出係数 H30 年度 (0.518kg-CO₂/kwh) で算出します。

3) 節水活動

平成29年度使用量を基準として3年間で1%の削減目標を設定します。

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
上水使用量	m ³	536	531 (△1%)	531 (前年維持)	531 (前年維持)

4) 食品廃棄物の削減及びリサイクルの推進

食品廃棄物は資源として再生利用するも、ベルト等に付着した食品残渣は農家の利用が無くなり、25年度から焼却場での廃棄処分を行っています。平成30年度目標は平成29年度実績の99.5%で設定します。現在食品廃棄物を食品として開発中であり、平成31年度は平成29年度実績の99.5%、平成32年度は新商品開発を勘案し、食品廃棄物の削減50%を目標値として設定します。

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
食品廃棄物	t	735.2	728	698	368
リサイクル量	t	731.7	725	695	367
リサイクル率	%	99.5	99.6	99.6	99.7
最終処分量	t	3.5	3	3	1

5) 廃棄物の削減・リサイクル

リサイクル率を現状維持の100%を堅持することを目標として設定します。

廃棄物	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
フレコン容器他	Kg	0	0	0	0
リサイクル量	Kg	0	0	0	0
リサイクル率	%	—	—	—	—

平成22年度までは、フレコン容器は有価物として100%再生利用していましたが、取引先の業務活動休止により取扱い委託業者へ返却しています。

よって、24年度以降のフレコン廃棄物は殆ど発生しないものと考えます。発生した場合は再生利用に努めます。

今後も産業廃棄物として発生しないよう委託業者へ返却を行います。

6) グリーン購入比率の向上

平成29年度の作業服の比率は前年同様50%で推移しました。平成32年度の3項目の目標はそれぞれ80%達成を目標取組みます。

環境配慮商品項目	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成31年度 目標	平成32年度 目標
作業服（ペットボトル再生）	50%	60%	80%	80%
再生紙	70%	80%	80%	80%
事務用品（エコマーク商品）	70%	80%	80%	80%

上記の作業服、事務用品の中で、購入が可能な品目があれば積極的に購入します。

作業服（ペットボトル）のエコ購入実績が若干低調、意識を持って推進します。

7) 地域・近隣の環境保全活動

地域・近隣の環境保全活動については、毎年定期的に地域工業団地内の取組みと一体となって活動しています。平成29年度実績は会社独自の取組みも含め活動した結果、例年目標とする数値通りの実績となりました。今後も平成29年度実績をベースに引続き環境活動には積極的取組みます。

項 目	平成 29 年度 実 績	平成 30 年度 目 標	平成 31 年度 目 標	平成 32 年度 目 標
社内の草刈り、清掃等の実施 (回/年)	4 回	4 回	4 回	4 回
地域全体の中での環境保全活動 (回/年)	5 回	5 回	5 回	5 回

8) 本業におけるエコ活動

省エネ、生産効率改善、品質改善等に取り組んでいます。平成30年度以降も年3件以上の改善の目標を心掛けます。

項 目	平成 29 年度 実 績	平成 30 年度 目 標	平成 31 年度 目 標	平成 32 年度 目 標
① 省エネ（電力のピーク値及び負荷を低減させる取組） ② 品質向上のための低温保管、保管条件の改善等	3 件/年	3 件/年	3 件/年	3 件/年

5、食品リサイクル環境活動計画の内容【平成30年度～平成32年度】

1) 環境目標の責任者及び担当者 平成30年度～平成32年度までの活動計画を示します。

取 組 項 目	目 標	担 当 者	責 任 者
電力消費量削減	3 ヶ年で3%削減	出口 友栄	環境管理責任者 伊東 清一郎
重油量削減	3 ヶ年で3%削減	伊東 哲也	
エコドライブの推進	燃料の消費量を3 ヶ年で3%消費削減	林 康浩	
節水活動の維持	3 ヶ年で1%削減	佐々木 純	
食品廃棄物の削減・リサイクル活動の推進	リサイクル率を平成32年度までに99.7%達成を目指す	脊川 勝也	
グリーン購入比率の向上	80%達成を目指す	荒金 愛	
地域・近隣の環境保全活動	100%達成を目指す	全社員	
本業におけるエコ活動	年間3件を目指す	伊東 哲也	

2)取組の内容

取組項目	取組内容
電力消費量・重油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 昼休み及び不在時の照明消灯。 ② 未使用時のパソコンの電源 OFF。 ③ 室内空調は、夏期は26～28℃、冬期は22℃前後に設定し太陽光を最大限活用する。 ④ コピー機、パソコン、プリンター等のOA機器について、エネルギー効率の高い機器を積極的に導入する。 ⑤ 日射の室内への導入、床や壁面での蓄熱、通風の活用などにより、太陽エネルギーを自然なかたちで使う。 ⑥ 高効率蛍光灯、インバーター照明など、照明機器の省エネルギー化を進める。 ⑦ ボイラーの効率的な運転の推進を行う。
エコドライブの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 効率的な配達ルートの設定。 ② 社用車の効率的な運転の推進。 ③ アイドリングストップの励行。 ④ 定期的な車両整備の励行。 ⑤ 余分な荷物を積んで運行をしない。 ⑥ 走行距離と供給燃料量を記録する。
節水活動の維持	<ul style="list-style-type: none"> ① 水道の蛇口を調節して、必要以上に使いすぎないようにする。 ② 流しっぱなしにしない。
食品廃棄物及び一般廃棄物の削減・リサイクル活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 麦糠については家畜等の飼料として活用し又、残渣については畑の肥料として継続再利用する。 ② 紙使用量の削減。 ③ 両面コピーの徹底。 ④ 裏紙の使用。 ⑤ ミスした紙は裏面をメモ用紙として使用。 ⑥ 使用済みの封筒の再利用。 ⑦ ゴミの分別の徹底（古紙について分別してリサイクルする）。 ⑧ 資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）の徹底分別。
グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① ペットボトル再生による作業服の購入の継続。 ② 再生紙、再生紙使用の名詞、コピー紙購入の継続。 ③ 封筒の再使用。 ④ エコマーク事務用品の購入の拡大。
地域・近隣の環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 社員一体となった活動の推進 ② 地域と連携した活動の推進
本業におけるエコ活動	<ul style="list-style-type: none"> ① セミナー、研修会等による省エネ、アイデア収集 ② 関連技術の収集・習得による実施

備考：当社は食品業として化学物質は現在迄使用していません。今後使用する場合は、環境活動計画を策定します。

6、食品リサイクル及び環境活動の取組み結果の評価

1) 省エネルギー活動

項目	単位	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績	削減率 (%)
電力消費量	kWh	308,548	305,463	304,937	△0.2
A 重油	L	13,560	13,424	14,620	8.9
LPG	Kg	95	94	88.4	△6.0
二酸化炭素 換算量	Kg-CO ₂	196,856	194,887	197,838	1.5

購入電力の二酸化炭素排出係数は0.518kg-CO₂/kWh(新出光排出係数H28年度)とします。平成30年度の目標は対前年比△1%で設定します。

平成30年度生産高実績は、平成29年度とほぼ変わらず推移していますが、今後も麦焼酎の売上回復は厳しいと予想され、麦焼酎の動向には、十分注視していく必要があるように思われます。

現在、新商品の開発も最終局面を迎えており、麦焼酎・麦味噌以外の主力商品にと計画しており、インターネット等での自社販売、素材メーカーとしての販売の二つに絞り込み中であり、電気消費量は、生産高減少により平成30年度目標に対し0.2%の削減となりました。又、A重油は平成30年度目標に対し一回分の見込み購入が発生した為、8.9%の増加となりました。

LPGは温水器を主に使用しており対前年比目標に対し、6%の削減となりました。

今後LPGの使用量は更に減少するものと考えます。

平成30年度以降は新商品の投下も視野に入れ、売上げ増加を図り効率的な省エネルギー活動を推進します。

※参考：製品生産高に対するA重油の使用量推移

項目	単位	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	前年度から の削減率 (%)
製品生産高	t	2,599	2,335	2,171	2,177	0.3
A 重油	L	20,190	17,520	13,560	14,620	7.8
生産高 (1ℓ当り)	kg	128.7	133.3	160.1	148.9	7.5

平成30年度の生産高は、対前年比6tの増加とほぼ横ばいではあるものの、麦焼酎、麦味噌等の売上動向には今後も注視が必要と思われます。今後は新商品の開発を推進し売上増加を図り乍ら生産性向上に努めます。平成30年度の1ℓ当りの生産性は、対前年比7.5ポイント悪化しました。

2) エコドライブ活動

項目	単位	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績	削減率 (%)
ガソリン・ 軽油	L	17,498	17,323	15,651	△9.7
二酸化炭素 換算量	Kg-CO ₂	44,687	44,240	39,937	△9.7

平成30年度の目標は対前年比△1%で設定します。平成30年度実績は売上減少の煽りを受け配達も減少するなか配達の効率にも努め、平成29年度使用実績に対し△10.6%

の削減となりました。平成30年度以降も売上増を図りながら集約配送、アイドリングストップの励行、毎日の点検等引続きエコドライブに努めます。

3) 節水活動

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	削減率 (%)
上水使用量	m ³	536	531	527	△0.8

平成30年度の目標は対前年比△1%で設定します。平成30年生産量は平成29年度とほぼ変わらず推移しており、上水使用量も△9m³と若干の減少となりました。今後も効率的な使用に努めます。

4) 食品廃棄物の削減・リサイクル

項目	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	削減率 (%)
食品廃棄物	t	735.2	728	724.5	△0.5
リサイクル量	t	731.7	725	721	△0.6
リサイクル率	%	99.5	99.6	99.5	△0.1
最終処分量	t	3.5	3	3.51	14.5

平成30年度の目標は、製造工程での加工方法の見直しにより食品廃棄物の減少をもたらし、食品廃棄物・リサイクル量共、対前年実績比0.5%程度の削減を目標に設定しました。平成30年度の製品生産量は、平成29年度と殆ど変わらず推移したが、目標を若干上回る削減を達成することができました。然し乍ら、平成25年度以降農家の廃業により肥料として活用していた残渣物が、市営の焼却場での処分となり廃棄物が発生しました。新たな農家を探し肥料として、今後も活用できるように努めます。食品循環資源の再利用等の実施率はすでに99%以上を達成しており、引続き現状を維持継続して行きます。

5) 廃棄物の削減・リサイクル

廃棄物	単位	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	削減率 (%)
フレコン他	Kg	0	0	0	—
リサイクル量	Kg	0	0	0	—
リサイクル率	%	—	—	—	—

平成22年度までは、フレコン容器は有価物として100%再生利用していたが、取引先の業務活動休止により、平成23年からフレコンは取扱い業者へ返却しています。

6) グリーン購入比率の向上

環境配慮商品項目	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	達成率 (%)
作業服 (ペットボトル再生)	50%	60%	50%	83.3
再生紙	70%	80%	75%	93.8
事務用品 (エコマーク商品)	70%	80%	75%	93.8

平成30年度はグリーン購入に対する認識は高まっているものの、29年度実績に対し、再生紙、事務用品共5%向上したものの、作業服は平成29年度と変化なく、平成30年度に目標達成すべく取り組みます。今後も環境配慮型の商品に配慮しながら実態に即応した購入に努めます。

7) 地域・近隣の環境保全活動

例年、工業団地内の草刈を社内で2回、諫早市で2回と計4回行っており又、周辺地域の清掃も5回行っています。

項目	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	達成率 (%)
社内の草刈り、清掃等の実施 (回/年)	4回	4回	4回	100
地域全体の中での環境保全活動 (回/年)	5回	5回	5回	100

今後も引き続き環境の保全には努めてまいります。

8) 本業におけるエコ活動

環境目標の責任者と共に食品リサイクル環境活動計画の取組内容をよく理解すると共に、その項目の中から抽出して実行します。低温保管は害虫が発生しない適温での管理を行っております。

項目	平成29年度 実績	平成30年度 目標	平成30年度 実績	達成率 (%)
①省エネ（電力のピーク値及び負荷を低減させる取組） ②品質向上のための低温保管、保管条件の改善等	3件/年	3件/年	3件/年	3件/年

平成30年度以降も年3件は省エネの改善に努めてまいります。

7、代表者による全体の評価と見直し

- ① 平成30年度の生産高は対前年比3%（6t）増加したものの、売上高は、麦焼酎、麦味噌の売上減少の影響もあり対前年比2.4%（△6t）の減少となりました。現在開発中の食品を商品化し販売することで、売上増加に繋げたいと考えます。
- ② 生産高は若干増加しましたが、二酸化炭素排出量は環境への配慮が定着してきており、対前年比1.6%減少することができました。
今後の新商品販売による売上増加を勘案し、生産高向上も想定した中での、各種排出量、使用量等の比率の減少もできるよう推進します。
生産量は対前年比0.3%増加しましたが、産業廃棄物量は製造方法の見直しもあり、対年比10t（△1.4%）減少しました。
今後も、生産高の増加を図り乍ら省エネ活動を推進します。
- ③ エコドライブ活動は、効率的な配車に努め、対前年比10.6%の削減を達成することができました。今後も効率的配車を行い、エコドライブ推進に努めます。
- ④ 節水活動も全員の節水に対する取組が奏功し、対前年比1.7%削減することができました。品廃棄物の削減・リサイクル活動は若干増加しましたが、加工技術向上等の結果、対前年比1.4%削減することが出来ました。ベルト等に付着した残渣物は目標の3tを0.5tオーバーしましたが、リサイクル率は99.5%と「基準実施率85%以上」をクリアすることができました。今後共食品廃棄物の減少に取り組めます。
- ⑤ フレコン容器は、取扱業者へ返却しており廃棄物としての取扱いは発生しておりません。
- ⑥ グリーン購入の達成は価格的なものもあり、目標達成率は作業服が50%と低調ではありますが、他の二項目は75.0%の結果となりました。今後も引き続き関心を持って購入比率向上に取り組んでまいります。
- ⑦ 平成31年度も全員で省エネの意識を持って取組み、顧客の必要とする商品を提案し、品質の更なる向上を考えてまいります。
又、現在開発中の機能性食品を早急に完成させ、関係機関でのサンプル分析を行い、顧客に役立つ商品を販売してまいります。
顧客の必要とする商品はどのようなものか常に考え、エコアクション21の意義と環境活動のイメージを描きながら、技術の向上、一人一人の責任ある意識の醸成を図り、全員で取り組んでまいります。

平成31年2月20日

代表取締役 伊東 清一郎

8 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

対象となる主な環境関連法法令リスト（法令リスト）

法令の名称	法令等の遵守すべき内容	チェック
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条：事業者の責務 第12条：産業廃棄物処分委託、管理表（マニフェスト）の交付・管理、産業廃棄物の保管	レ
道路運送車両法	第47、48、49条：道路運送車両の点検及び整備	レ
循環型社会形成推進基本法	法の対象となる廃棄物のうち有用な物を「循環資源」と定義されているものの取り扱い。	レ
省エネルギー再生資源利用促進法	資源の使用の合理化再生資源の利用の総合的推進を図るための方針を策定	レ
長崎県環境基本条例	第8条4項：環境への負荷の低減 第16条：資源の循環利用・廃棄物の減量	レ
長崎県廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則	第1条：廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の規則	レ
諫早市環境保全条例	第15、18条：事業者の責務 第16、19条：事業者の努力義務 第17条：事業者の自然環境保全 第20条：公害防止の技術の研究開発	レ
諫早市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	第5条：事業者の責務 第9条：事業者の事業活動に伴う廃棄物の処理	レ
JAS法	第1条：農林物資の生産及び流通の円滑化等	レ
食品衛生法	第1条：目的から第79条罰則まで全文	レ
食品リサイクル法	食品循環資源の再生利用促進、定期報告、罰則 第2条第4項、5項、第3条、第7条、第9条、第10条～15条、第24条	レ
容器包装リサイクル法	容器包装に係る分別等第1条から49条	レ
PL法	第1条：製造者等の損害賠償責任等第6条まで	レ
大気汚染防止法	適用範囲外	レ
騒音規制法	適用範囲外	レ
水質汚濁防止法	適用範囲外	レ
下水道法	第3条：公共下水道の管理 第10条：排水設備の設置	レ
フロン排出抑制法	第16条【第1種特定製品の管理者の取組】（業務上エアコンの簡易点検）、（機器の設置に関する義務）、第19条（フロン漏洩に関する義務）	レ
振動規制法	適用範囲外	レ
消防法	第2条：危険物貯蔵・取扱い及び運搬等の基準 第10条～16条：位置、構造及び設備	レ

(イ) 違反、訴訟等

遵法状況の確認は、上記記載のチェック欄のように環境関連法規への違反はありません
尚、関係当局による違反の指摘も過去5年間受けておりません。

平成31年2月20日

代表取締役 伊東 清一郎
環境保全関係責任者 伊東 清一郎